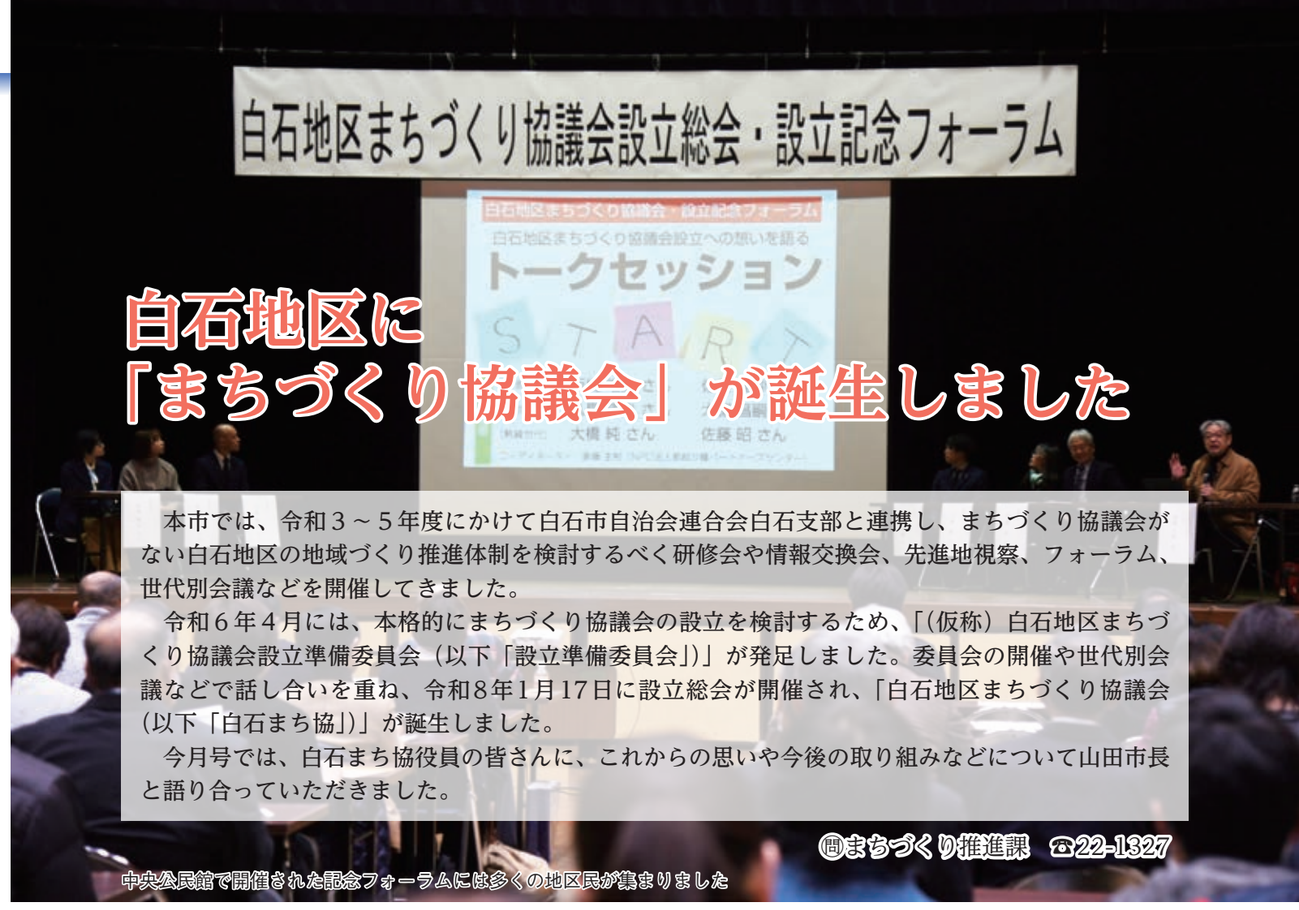


白石地区に「まちづくり協議会」が誕生しました

本市では、令和３～５年度にかけて白石市自治会連合会白石支部と連携し、まちづくり協議会がない白石地区の地域づくり推進体制を検討するべく研修会や情報交換会、先進地視察、フォーラム、世代別会議などを開催してきました。

令和６年４月には、本格的にまちづくり協議会の設立を検討するため、「(仮称）白石地区まちづくり協議会設立準備委員会（以下「設立準備委員会」)」が発足しました。委員会の開催や世代別会議などで話し合いを重ね、令和8年1月17日に設立総会が開催され、「白石地区まちづくり協議会(以下「白石まち協」)」が誕生しました。

今月号では、白石まち協役員の皆さんに、これからの思いや今後の取り組みなどについて山田市長と語り合っていただきました。

問まちづくり推進課　☎22-1327

中央公民館で開催された記念フォーラムには多くの地区民が集まりました

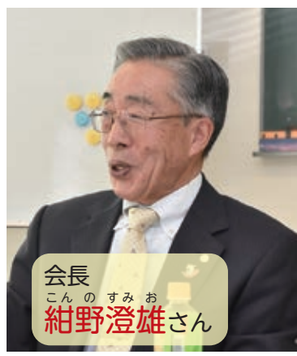
白石まち協設立に期待

市長　各地区のまちづくり協議会はそれぞれの地域の特性を生かして、地域の魅力発信、地域おこし、課題解決を積極的に行っています。

先月、白石まち協が設立され、私も一市民として大きな期待を寄せています。

これまでの白石地区では、自治会単位で行事が開催され、自治会の枠を越えた取り組みは、ほとんどなかったように思います。そのため、白石まち協が自治会の枠を越えた取り組みを行うことで、参画する子どもたちや地域内の素晴らしい能力をお持ちの先輩方がどのような力を見せてくださるか楽しみです。

はじめはスモールスタートで良いと思っています。役員の皆さんを中心に、白石地区の皆さんを巻き込む原動力となってもらえることを期待しています。


会長
紺野澄雄（こんのすみお）さん

これまで感じていた白石地区のこと

紺野　白石地区では、自治会がまちづくり協議会と同じ役割を担ってきたと思っています。

しかし、少子高齢化・人口減少の影響から、単独では事業展開が難しくなる自治会がでてきていて、市から与えられた事業をやるだけでは、活気がなくなってしまうと思います。

そのような中、令和3年から市と連携し、視察に行ったり、研修会を開催したことで、白石地区にふさわしいまちづくり協議会を設立する必要があると考えるようになりました。白石地区の伝統や環境を生かし、良いものを作っていこうと、これまで設立準備委員会や座談会で話し合いを進めてきました。

まちづくり協議会で今後取り組みたいこと

佐藤　私は第六次白石市総合計画のまちづくり宣言を策定している時から足かけ6年ほど関わっています。

白石地区の良さは、白石城やお堀、武家屋敷、素晴らしい自然があると、つくづく感じてきました。これまで視察で出会った方々からは「白石にはいろいろあっていいですね！」と言われ、本市の良さを再認識しました。

私は自治会長を15年ほど務めていますが、特に、若い人たちが自治会活動になかなか加わってもらえない現状があると思います。それは長年役員を担う私たち熟練世代が、若い人たちの地域づくりへの考え方に対する理解が不足していたと現在は反省しています。白石まち協が若い人たちとの接点をしっかりと持つことで、自治会とまちづくり協議会のどちらにとっても良い方向に進めるようにしていきたいと思っています。

副会長
佐藤（さとう）　昭（あきら）さん

連携協働チーム代表
加川雄太（かがわゆうた）さん

加川　白石地区には、大切にしたい魅力が多くある一方、少子高齢化や地域活動の担い手不足、暮らしの変化など、さまざまな課題もあります。こうした課題を「誰か」ではなく地域の皆さんと「一緒に」考え、形にしていく場が必要だと感じて、設立準備委員会に加わりました。

行政任せでも、個人任せでもなく、地域の声を集めて未来に向けた行動を起こす「受け皿」として、まちづくり協議会の存在が必要だと考えました。

白石まち協で子どもから高齢者まで安心して暮らせる環境づくり、若者や新しい住民が参加しやすい地域活動、交流やイベントを通した地域のにぎわいづくりなどに取り組んでいきたいです。

将来に備え、自分たちで考え・行動できるように

五嶋　白石ではさまざまなイベントがあり、地域を盛り上げようとしている人やサークルもあり、それぞれの集まりの中で白石を活性化させよう、まちを良くしていきたいと掲げています。

しかし、それらの活動が実際に普段の暮らしの課題解決にどう結びつけられるのだろうかと考えていました。

有志団体の勉強会に参加した際に、講師の斎藤主税（さいとうちから）先生が、将来人口推計などを用いて地域を数値で分析していくことの重要性を話していました。

そのとき、いまの中高生が大人になり、いまとはガラッと違ったやり方をしないと立ち行かなくなると感じました。このようなことを誰がどう話せば良いのだろうかと悩みましたが、いまは単に市に任せれば良いのではなく自分たちで何かをしていかなければならないと思っています。

副会長
五嶋（ごとう）　理（わたる）さん

子どもたちの力を地域の中に生かしていく

大橋　設立準備委員会が開催した座談会の中で、子どもから意見が出ました。防災訓練に参加して「これやりなさいと言われてやらされてやるのは嫌。自分たちはせっかく学校でいろいろな話し合いをして、自分たちの